

ケアリングが築く未来

国際ケアリング学会の成果

本年3月24日～25日、日本赤十字広島看護大学にて国際ケアリング学会を開催した。

学会開催に至る背景には、ケアリングに関する看護理論の世界的大家である Jean Watson 博士による「原爆を世界で最初に経験した広島で、ケアリングと平和をテーマに学会を開きましょう」という貴重な要請があった。私たちにとっても、広島には特別な思い出があり、原爆によって被った広島の苦しみと、そして世代世代受け継がれてきた平和への希求を強く感じている。それだけに、本学会の開催は非常に感慨深いものがある。

学会では、本学会名誉会長の Watson 博士をはじめとするさまざまな講演、ならびに参加者間の討議や意見交換を大切にするために示説や交流集会を中心に構成しつつ、ケアリングと平和に関するさまざまなセッションをプログラムに盛り込んだ。さらに、現在進められている「ケアリング・アイランド九州沖縄構想推進会議」と「市民公開講座」をプレカンファレンスとして開催し、広く市民の方々に対してもケアリングと平和の大切さや意義を伝え、それぞれに考えていただく機会を設けた。

本特集では、こうしたプログラムの中から5つの講演を紹介する。Watson 博士による名誉会長講演に加え、「リフレクティブ・プラクティス」の提唱と実践で名高い Christopher Johns 氏、またナイチンゲールの研究者として第一線で活躍されている Barbara Dossey 氏、そしてわが国からは、本学会会長の新道幸恵氏と、上

述のケアリング・アイランド九州沖縄構想の取り組み担当を務める
安酸史子氏である。

原爆が投下されたその日、数多くの看護者が自ら被ばくしながらも、犠牲者のケアに献身的に身を投じた。そして生き残った看護者は語り部となり、当時の経験を語りはじめた。それはまさに“平和への強い願い”であり、終戦後65年を超えていまなお、世界に語り継がれている。本学会、そして本特集にも、そうした看護の精神が息づいているはずである。看護のケアリングの心と実践力が平和を招くことを固く信じ、平和のために看護ができること、そしてケアリングの未来を考える機会としたい。

本特集を通して、多くの読者がケアリングと平和について考えを深め、ケアリング研究のさらなる進展とケアリングが導く平和の実現に向けて、ともに歩んでいけることを願ってやまない。

企画：国際ケアリング学会企画委員会

〔学会長〕新道幸恵(NPO 法人看護アカデミア幸、前日本赤十字広島看護大学)

〔名誉会長〕Jean Watson(University of Colorado Denver／Founder of
Watson Caring Science Institute)

〔企画委員〕植田喜久子(日本赤十字広島看護大学)、安酸史子(福岡県立大学)、
筒井真優美(日本赤十字看護大学)、グレッグ美鈴(神戸市看護大学)、
岡田淳子(日本赤十字広島看護大学)、戸村道子(同)、渡邊智恵(同)、
山口三重子(岡山県立大学)、江本リナ(日本赤十字看護大学)